

聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2013.4.27

No. 53



聖霊によって備えられた「時」

日本フリーメソジスト教団岸之里キリスト教会牧師

畑野 順一

演劇などで、幕をおろさずに舞台を暗くすること、場面の転換を図ることを「暗転」といいます。次への展開を期待することでしょうか。イエスの母マリアに対して、天使が救い主誕生の告知をした場面の展開は、その典型ではないかと思えます。

「マリアは言った。『わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。』そこで、天使は去って行った」(ルカ一・38)。まさに暗転で舞台が変わるところです。子どもたちのクリスマス劇にはとても効果があります。

でも、現実の世界では、どうでしょうか。天使が去ったあとに残されたのは、マリアとマリアの言葉でした。決して暗転にはならず、そのまま時間は経過していきます。このような状況で、確信が薄らいだり、いわゆる「揺れ戻し」を経験された方はないでしょうか。本当にこれで良かったのだろうか、と。

ルカは次のように述べています。「そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った」(39節)とあり、親類のエリサベトを頼って出かけました。ある聖書学者は、「この「急いで」という語は、マリア自身の言葉である」と

主張しています。私もマリアの思いを感じます。

エリサベトに何かを求めて急いで会いに家に入ったときに、「エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。『あなたは女の中で祝福された方です。……主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。』」とマリアの決心が間違っていないか、と聖霊によって確証が与えられました。自分一人の決心ではなかつた。そこで、有名なマリアの賛歌が告白されます。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」。心からの賛美でした。素晴らしい信仰の歌で、これで完結かと思いきや、「マリアは、三か月ほどエリサベトのところ滞在してから、自分の家に帰った(56節)と書き加えられています。一体、これは何を意味しているのでしょうか。実家に帰るのに三か月必要だったと。これもマリアの言葉でしょう。「思い巡ら」(二・19)すことに長けていたマリアには、決心後の暗転に代わって、「急い」だり「三か月」だったりの「時」が重要であったことを伝えて

います。
聖霊によって備えられた「時」をどう用いるかが問われていると強く感じます。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 論説：現代の青年に聖化の恵みを …… p.2-3
- 証し：イエスさまにお会いしてから …… p.4-5
- 創立 30 周年記念聖化大会 …… p.6
- カベージ博士紹介、著書の紹介 …… p.7
- 各地の聖化大会日程、編集後記 …… p.8

論説

現代の青年に、どのように 聖化の恵みを伝えるか

東京フリー・メソジスト教団 八王子中野キリスト教会牧師 須郷 裕介

私は、青年との交流に対して、決して多くの経験を持った者ではありませぬ。小さな働きのお分ち合いではないのですが、一つの方法として頂けるのでしたら感謝です。

先日、箱根湯本駅の前を歩いた時に、とても多くの若い人たちが、温泉街を闊歩していた事に驚かされました。ここ数年、様々な困難を通っている日本人には、人生に対する、ある危機感が響いていると思います。青年層に関して言うならば、スピードの速い社会の中で、時間を取られ急がされて、成功しているようでも気がついたら疲れている。失敗すると見捨てられる恐れが常にある。自分の進路を考えていく時、どのように歩んだとしても「存在が脅かされる危機感」を感じています。休みが取れたら、気の置けない仲間と温泉に行きたくなる、というのが、とても分かるように感じます。

色々困難な社会なだけに、日本全体が、ある意味で、地に足の付いた人観を好む面を見かけます。例えば、「ワンピース」という、年齢層を越えて親しまれている人気マンガを見てみると、その作品の中で注目されている

のは「打算に生きず、情熱のために命懸けになれるか」「他者のために生きられる人間であるか」「癒し難い傷を受けた者が、どのようにそれを昇華するのか」といった内容を描き続けているのか。またテレビを観ると、違った世代の人が、それぞれの時代に流行った事柄を出し合って、面白がりつつ一緒に時を過ごす姿がエンターテイメントになっていく番組があります。

「犠牲の愛・無償の愛」「目に見える事柄を越えた、人生の真髄は何か」「本当の絆を繋ぐための謙遜とは何か」という事を考えている時代ではないでしょうか。そして、実はこの事には、「キリストの福音」こそが、答えとなるはずです。

この時期の青年層も、こうした思いを実現させ、人と繋がる社会生活に積極的になる面があります。反面、家庭的な問題、生まれもった問題などの渦中で、人によっては、「どうして良いかわからない」「何に対しても積極的になれない」「悩みに囚われて動けない」と、立ち止まり気力を失ってしまう姿も多く見ます。私自身、そのような青年の堂々巡りの悩みを、何年もの長い

時間にわたって聞きながら、関わらせて頂きました。

そんな中、私自身は、以下の聖句を、よく思い出させて頂いています。

「……とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。」(ルカ 11:13)

「聖とする方も、聖とされる者たちも、すべて元は一つです。」(ヘブル 2:11)

この2つの聖句は、「日本」という土壌に育った私たちの内面から捉えやすく、私たちを、現実には寄り添う方向に導いてくれます。すぐにはどうしようもなく見える状況、行き詰まって感じられる中でも、天の父なる神は聖霊を喜んで与えてくださり、全ての人は、聖によって神さまの愛からもれない、ということがうれしいのです。

神に求めるなら誰でも、聖霊の愛によって本物の分かち合いが出来、一つとされる、という生き方に、神が私たちを強く招いてくださっています。その方向から、「聖さ」を、青年層に伝えることが、今、大事なのではないのでしょうか。



2013年2月25日の関東JHA評議員会での発題講演は、「現代の青年たち像」を理解する上で、たいへん有益なものでした。参加された先生方からも多くのレスポンスがあり、大いに盛り上がりました。別の言い方をすれば、私たちにとって「現代の青年」の意識を捉えることの困難さを示していると思います。

せっかくの講演を多くの方々と共有させていただきたいと思い、講演者の須郷裕介先生に、当日の質疑応答を含めて、改めてまとめていただきました。青年たちにどのように「聖化の恵み」を伝えるか、その一助となれば幸いです。

「聖」とは、聖霊の満たしによって、違いのあるお互いが、ひとつの愛に結ばれる恵みである」という肯定的な言葉から伝え始めることで、日本の若い人々に、良い方向で福音や聖化の恵みを伝えられるのではないかと考えられています。

「聖」ということが、「くでなくてはならない」という方向だけで語られてしまうと、青年にとっては、人の強さで上から目線の内容を語られていると思われる時があります。そうすると反対に本当の素晴らしさが伝わらなくなってしまわないでしょうか。

ここまでお話させて頂いたことから、青年に、福音と聖化の素晴らしさが伝わって、実現していく現場となるために、以下の点を考えてみたいと思います。

●キリストを伝えている人自身(牧者)が、人生を喜び楽しんでいるか。また、その人自身に魅力があるか

「魅力」は特別な賜物がある人だけの専売特許では無いと感じています。

主にゆだね、自由を与えられた自分を愛し楽しむ、自分の弱さやありのまま

を若い人に見せ、輝いているなら、それが青年にとって「魅力」に繋がるのではないのでしょうか。

●青年に関わる奉仕者が、大きな心で温かく見守り、答えを急がない

今の青年たちは、時代の厳しさを反映してか、少しでも批判的なことを言われると、その人に対して壁を作ってしまうやすく、萎縮してしまいます。大切なのは、同じ目線で、大きな心で見守り安心させてあげること。「あなたを信じている」という空気を大前提として接すること。助言が必要な時は、その奉仕者自身が始める祈り、神さまのルールに、優しさを持って導いてあげること。

「聖」の性質は、御霊による自由によって、神さまにこそできる大らかさを、人の心の中に実現していきます。その大らかさが青年層に伝わることを、良い意味で意識したいです。

●青年の集まりを企画する上で、考えたい点

青年の特別なプログラムを持つ場合に、打上花火のようなことを考える時代ではないと思います。礼拝と賛美が、排他的な印象を与えず、誰もが招かれ

ていると実感できること。イエスさまが私たちのために全ての面で降ってくださったように、私たちも下っていく中で神と出会うこと。日常を、礼拝の思いで過す中で、今の青年らしい交わりを共有できるように考えたいです。このような良い取組みは、様々な形で日本の中に起きてきています(事例多数)。まだ、自分自身の働きのおいて、どうすれば良いのか、具体的に見つけられているわけではないかもしれませんが、祈らせて頂いています。

ここまでお分ち合ひさせて頂いたことは、取り組んでいる現場では既に意識しておられることだったと思いますし、特別新しいことではなかったかも知れません。ただ、深い部分で欠乏や困難と闘っている青年層にとって、いのちの源泉を捉えさせてあげられる、様々な導きがあれば良いのにと願っています。「聖化」は、全ての人を自由にし、違いのある者同士の間、本当の分ち合ひを生じさせるものです。そのことをよりポジティブに伝えられたらと感じ、祈り、願いながら、今の時代の青年たちと関わっています。

小学6年生のとき、脊椎カリエスとの診断を受けました。負けん気の私は「入院は絶対にイヤ」でした。それを聞いた母が「病気は神さまがあなたに会うための応接室だから、お祈りしましょう。」と言ってくれました。

母は、終戦によって財産を失い、続いて夫を急病で亡くして悲嘆のどん底にいましたが、教会に導かれて主に救われ、賛美と証しと祈りの日々に変えられていました(93歳で召されるまで)。それで私が「神さま、私の病気を治してください」と祈ろうとした時です、心に「あなたは何をしたいのですか」という神さまの声を聞いたのです。私はその時、心では良い子になりたいと願っているのに、わがままやけんかをしてしまう自分、そして、そのような状態から救われたいと願っている自分に気づいたのです。そして「神さま、私を救って、優しい子にしてください」と涙ながらにお祈りしました。病気のことはすっかり忘れてしまったのですが、それから2週間ほどたったある日、学校の掃除当番のとき「タリタクミ」というみことばが心に響きました。家に帰って母に聞きますとそれは「少女よ、起きよ」という意味であること、またちょうど同じ時刻に母には「汝の娘は癒えたり」とみことばが与えられたというのです。その後レントゲンの検査で病気も全く癒やされていることがわかり、今日まで健康が与えられてきました。こうして心も身体も救われて以来、みことばに従うことと祈ることが私の信仰の歩みの土台となりました。高校時代には、母が牧師の勧めで始めていた家庭集会(その後教会設立)で友人たちが導かれ、洗礼を受けました。

きよめの証し

イエスさまにお会いしてから



札幌めぐみキリスト教会 副牧師

高橋 梨枝子

その頃教会では「聖化」が強調され、みな飢え渴いてきよめを求めていました。そして先輩の婦人たちから「梨枝子さん。きよめの信仰に立っていますか。いつイエスさまが再臨されるか分からないのですからね。」と言われたりしましたが私は「はい。でもその件は、私とイエスさまとのことです。自分ひとりで祈ります。」と生意気な答えをしていました。

大学生となり、礼拝、祈祷会、教会学校の奉仕を第一にしていますが、その上に授業、部活、家庭教師のアルバイト、そして教授や学友に主を証しするなど、目の廻る毎日でした。そんなある日、主の前に静まっていると、「心の貧しい者は幸いです。」の聖句と共に主イエスさまが「私は貧しいのだよ」と語ってくださいました。うに思いました。私の心は驚いてしまいました。そして、イエスさまが、世の人が羨むものを何一つ持たず、貧しい大工として過ごし、人々に救いの福音を宣べ伝えて、最後にあのむごい十字架の死を遂げられたことが心に迫ってきました。そして、イエスさまからあらゆる恵みを感じ、熱心なクリスチャンだと言われていることに内心得々としている自分の姿が見えてきました。それは結局は、自分が立派になりたいという虎の威を借りた狐のような醜い姿でした。どんな時にも教会生活を第一にして、神を愛し従っていると思っていた自分の醜い有様を泣きながら悔い改めました。また、そんな自分に気づかないで人々の前を大きな顔をして歩いてきた恥ずかしさでいっぱいになり、そのことを改めて神と人の前に悔い改めました。主の十字架がそのような私の本質的な罪

のためであったことを、心から信じました。そして、そのような私をだまって愛し続けてくださったイエスさまに心から自分の生涯を明け渡しました。その時から、聖書のみことばと神の愛が新しく開かれ、幼子のように主を信頼し、祈りの生活が深められました。

大学卒業後、聖書学院に入り、贖いの信仰に立ち続けることを学び「もはや、我活くるにあらず、キリスト我がうちにありて活くるなり。」との信仰に立たせていただきました。その後、教会への派遣、結婚、育児、開拓伝道、試練、等等、主の道を歩ませて頂き、神の愛と恵みの豊かさを体験させて頂きました。それは、①みことばと共に生きる恵み（特に聖書通読）。②祈りを通して神の約束を勝ち取ってゆく恵み。③教会生活を通してキリスト者の愛の交わりに生かされる恵み。④全ての人に備えられた神の救いと祝福を伝える恵み。⑤心から「ホーリネス・イズ・ハピネス」といえるめぐみです。最後にその中の2つの恵みを証しさせて頂きます。

(1) 会堂建築の時です。最後の支払の朝、どうしても3百万円が足りないのです、やむを得ず銀行に行こうとする夫ともう一度お祈りしました。その時、詩篇一四七・15の「主は地に命令を送られる。そのことばはすみやかに走る。」を示されて「主よ。今は人間の言葉でも電話で地球の裏側まで届きます。どうかあなたのお言葉を送ってください」とお祈りしました。その時、電話のベルが鳴ったのです。主人が出ますとそれはいつもお祈りくださる方からの電話でした。「高橋先生。会堂を建てておられるそうですがその後いかがですか。必要は満たさ



れましたか。」というものでした。夫がありのままを申し上げましたところ、即座に「主に導かれていますので、その分を献金させて頂きます」と言われ、その日のうちに送金され、支払いをすることができたのです。

(2) 1999年夏のこと。東京聖書学院3年生だった次女が、夏季伝道のため母教会に派遣されていました。バイブルキャンプの参加者3名を載せて車を運転して中山峠に差し掛かったとき、突然ブレーキの故障で暴走し始めたのです。前の車への追突が避けられなくなったため「みんなしつかり掴まって。主よ、おまかせします」と叫んでハンドルを左に切ったところに、道路標識の鉄柱があり、車は運転席側から激突、大破しました。後で警察の方から聞いたことでしたが、車は衝突の瞬間90度回転したため衝撃が弱められたのだそうです。もし衝突の角度が少しずれていたら、全員即死であったとのことでした。幸い他の3人は無事でしたが、娘は骨盤骨折、腰椎骨折、顔面挫傷、顔面骨折、など口の重傷を負っていて瀕死の状態でした。ヘリコプターで札幌医大病院に運ばれ、24リットルもの輸血が行われ、懸命の処置がなされました。しかし医師からは助かる可能性が低く、万一助かってもしさまざまな障害が避けられない事を告げられました。ところが娘は、医師が驚くような主のみ業によって一命を取りとめて回復していったのです（数え切れない多くの方々の祈りがありました）。娘はその後、聖書学院を卒業し、現在は埼玉県で牧師夫人、二児の母として元気な忙しい日々を過ごしています。ホーリネスこそ神の祝福の道です。ハレルヤ。

直次郎 うさぎ



©富無尽蔵

日本聖化協力会
創立30周年記念全国聖化大会 2015年10月12日

記念式典と聖化大会

日本聖化交友会が結成されてから、2015年には30周年を迎えます。これを記念して創立30周年の全国聖化大会を開催します。日程は10月12日(月・祝日)です。東京で開催しますが、会場の都合などを含め、検討中です。講師には、第一回の聖化大会でメッセージを語ってくださったジョン・N・オズワルト博士をお迎えします。博士はアズベリー神学校、トリニティ神学校、ウェスレアン・ビプリカル神学校などで旧約聖書を教え、アズベリー神学校の学長を務められた器です。著書は、デイボーション的なものから注解書まで、幅広く執筆し、国際訳聖書(NIV)の翻訳プロジェクトにも携わり、数多くの論文を執筆されています。

また、日本聖化協力会出版委員会から、2009年に『聖き』を生きる人々が翻訳出版されています。記念聖化大会は、30周年の記念式典、聖会I、II、さらにパネル・ディスカッションなど、多彩なプログラムを予定しております。

全国の聖化交友会から、多くの会員の皆さまの参加を願っております。詳細は追ってご案内いたします。

なお、創立30周年の記念事業の一環として、下記にも紹介されていますように、「説教集」の刊行を企画しています。今年から毎年1巻ずつ、旧約併せて3巻の説教集を出版いたします。聖書のホーリネス・メッセージのスタンドードを示すことを願っています。

創立30周年出版新企画のご案内

聖書に根ざしたきよめを追求する
日本聖化協力会の牧師たちによる説教集

ホーリネス・メッセージ集

全3巻を予定 刊行準備中!

好評を博した『ホーリネス——牧師15人のメッセージ』に続いて、出版委員会では、新企画

の説教集を準備しております。今回は、旧約聖書から2巻、そして新約聖書から1巻の、みことばに学ぶ聖化の説教を取り上げます。内容は、身近な先生方が普段の礼拝説教で語られる聖書講解説教的なホーリネス・メッセージを集めます。毎年1巻ずつ発行する予定です。3年がかりですので、全3巻の出版まで少し時間がかかりますが、ご期待ください。



光に打たれて

ステイブ・ハーパー説教集
飯塚弘道訳／飯塚俊雄監修

この本は2010年、関東聖化大会にステイブ・ハーパー博士をお迎えした折、5回にわたって語られた説教と講演をまとめたものです。全体は5つの章からなっています。全体の基調は「愛」。ホーリネスの教理の全体像を見渡すことができます。



アラン・カページ博士プロフィール Dr. Allan Coppedge Ph.D.

2013年 聖化大会に講師としてお迎えする



アラン・カページ博士は、1965年にエモリー大学で学士、1967年にエジンバラ大学で神学士、1969年にアズベリー神学校で教育学修士、1977年にケンブリッジ大学で哲学博士の学位を取得され、その後ジョン・ホプキンス大学で博士号取得後の学びを終了されました。米国メソジスト合同教団の北ジョージア教区の長老であり、ジョージアとケンタッキーにおいて牧会経験を持ち、中央及び南アメリカ、英国で幅広く説教者として用いられています。諸神学校、大学、教会、宣教団体における弟子作りを推進するために作られたバルナバ財団の創立者であり総裁です。また、フランシス・アズベリー協会の初代総裁でもあられます。

カページ博士は、ケンタッキー州ウイルモアのアズベリー神学校で、1977年以来キリスト教神学を教えておられます。クラスの中でも外でも豊富な経験をお持ちです。アズベリー神学校の教鞭を取る前には、南アメリカのコロンビア聖書神学校で、学監を務め、そこにおいて東洋宣教会（OMS）の宣教師としても働かれました。多くの聖会、キャンプ、特別集会で説教をしておられます。

カページ博士の著書として、「神の横顔——ホーリネスの聖書の神学」、「ジョン・ウェスレーの神学的論争」、「弟子の道」、「神の像のように」、「あなたがたへの神の目的」など多くを著しておられます。

カページ博士はベス夫人との間に4人のお子さんがおられます。

聖化大会講師の著書

イムマヌエル出版事業部発行

弟子の道 その聖書的原則

アラン・カページ著 南場良文訳

240ページ 定価：1,800円＋税



本書は弟子作りのマニュアルではない。むしろ、弟子の道を実践するための土台となるべき、霊的な基礎を提供するものである。ここに示された聖書的基本原则が、実際経験においても効果的であり、有効であることを明らかにする。（著者序文）

推薦のことば ロバート・E・コールマン博士

アラン・カページ博士は、聖書に描かれている救いのドラマに見られる、新しい人生の基本的内容を取り上げ、鋭い洞察力をもって聖書全体から、神が主導権を取って弟子の道を展開されていることを観察

しています。私にとって特に有意義と思われるのは、著者自身が実際の弟子作りにかかわっているということです。著者が自ら教えている原則を実践しようとしている様子を見ると、私自身も心燃やされます。

2013年に各地で開催される聖化大会

	大会名	期日	講師	会場
札幌	第6回 北海道聖化大会	5/21~22	村上宣道師	北海道クリスチャンセンター
	25周年記念大会	10/18	カページ博士	北海道クリスチャンセンター
宮城	第25回 仙台聖化大会	9/23	小紫義弘師	日基 仙台青葉荘教会
山形	第18回 山形聖化大会	9/23	村上宣道師	COG 酒田教会
栃木	第17回 栃木聖化大会	5/26	峯野龍弘師	兄弟団 真岡教会
関東	第9回 春の青年大会	5/26	山田 泉師	IGM 中目黒教会
	第28回 関東聖化大会	10/20~22	カページ博士	IGM 中目黒教会
遠州	遠州聖化大会	2/24	福江 等師	IGM 浜松教会
東海	第20回 東海聖会	6/29~30	山崎 忍師	名古屋 一麦教会
	第26回 東海聖化大会	10/24	カページ博士	IGM 名古屋教会
大阪	第64回 Wに学ぶ会	5/21	小平牧生師	ナザレン大阪桃谷教会
	第65回 Wに学ぶ会	10/25	カページ博士	ナザレン大阪桃谷教会
岡山	第11回 岡山聖化大会	10/27	カページ博士	日本イエス 岡南教会
四国	第6回 四国聖化大会	6/30	芦田道夫師	日本イエス 羽ノ浦教会
九州	第24回 九州聖化大会	10/29	カページ博士	兄弟団 福岡教会

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページをご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教会、あるいは個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを教会に、お住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化大会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

続々と、電子書籍化を進めます！

電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。Amazon Kindle ストアで検索してください。

エマオの道で 365日の霊想

デニス・F・キンロー著
三、四〇〇円＋税



牧会者、伝道者として、聖書学者、神学者として、幅広くキリストに仕える著者が、時には説教のように、時にはエッセイのように、証しや体験談を交えて神の恵みを語る。

編集後記

聖化 53 号をお届けします。年度切替の慌ただしさに引きずられ、またしても編集が遅れてしまいました。ご迷惑をおかけします。2015 年の創立 30 周年に向けて準備が始まりました。さっそく今年から記念事業の一環として、説教集の刊行

が秋の聖化大会を日ざして動き始めます。

今回は、2月の評議員会で須郷裕介先生がされた講演を、改めて書き下ろしていただきました。また、札幌教会の高橋梨枝子先生がすばらしい証しを寄せてくださいました。感謝。(矢木良雄)

聖化 No.53 2013年4月27日発行

発行 日本聖化協会 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 電話/Fax 03 (3293) 5130
E-mail kjha1985@aria.ocn.ne.jp URL http://jha.christ.gr.jp/ 編集担当：矢木良雄／錦織 寛